

欧州仮設機材事情視察

2025年
vol.1

1 視察の概要

期 間：2025年4月6日～4月12日

場 所：展示会ドイツミュンヘンbauma2025

現場見学オーストリアウィーン C.A.R. Gerüst GmbH 施工現場

参加人数：38名（仮設工業会2名を含む）、添乗員1名

2 視察の内容

(1) 4月6日（日）>>>

参加者は午前7時30分に羽田空港第3ターミナルに集合したのち、午前9時30分発ルフトハンザドイツ航空 LH715 便に搭乗し、ミュンヘンに向けて出発した。約14時間のフライト後、現地時間の午後5時頃にミュンヘン国際空港に到着した。

空港から専用バスに乗り、宿泊地であるガルミッシュ・パルテンキルヘンに向かい、午後7時30分頃ホテル（Atlas Grand Hotel Partenkirche、写真1）に到着した。

チェックインの後、ホテルのレストランにて山崎技術部長兼東京試験所所長より参加者の方に対し挨拶を行い、食事を取りながら名刺交換等を行い懇親を図った。



写真1 ホテル（Atlas Grand Hotel Partenkirche）

(2) 4月7日（月）、8日（火）>>>

両日とも、午前8時頃にホテルのロビーに集合し、専用バスにてドイツ・ミュンヘンで開催されているbauma2025の会場へ向かった。7日の道中はbauma2025へ向かう車で渋滞しており、入場できたのは午前10時30分頃であった。

会場の大きさは614,000m²で2022年に開催された際の出展社数は60カ国から3,200社ほどの出展があり、およそ200カ国から495,000人以上の来場者と、大変規模が大きなイベントである。

また、野外ブースでは普段は見かけないスケールの重機が立ち並んでおり、圧倒的な迫力だった（写真2）。



写真2 野外ブース

視察団は、最初にPERI GmbHの野外展示ブースに訪問して、担当者から説明を受けながら展示ブース内を見学した（写真3、4）。

PERI GmbHで製造されているPERI UPは建設現場のみならず、産業やイベント会場でも使用されており、様々なパーツが作られているため、総称してペリーアップキットと呼んでいるとのことである。



写真3 PERI GmbH 展示ブース外観



写真4 PERI GmbH 展示ブース内部

未来の展望として、PERI GmbHではドイツ国内の大学4校と共同研究し、足場を自動で組み立てるマシンを開発しているとのこと。2つのアームを備えており、一つのアームで組み立てを行い、もう一つのアームにはセンサーが取り付けられており、組み立て位置と打ち込みの精度を測定しているとのこと。人を完全に排除する思想ではなく、人のパートナーとして使用することを考えているため、コボット（コラボレーションロボット、写真5）と名付けたとのことである。

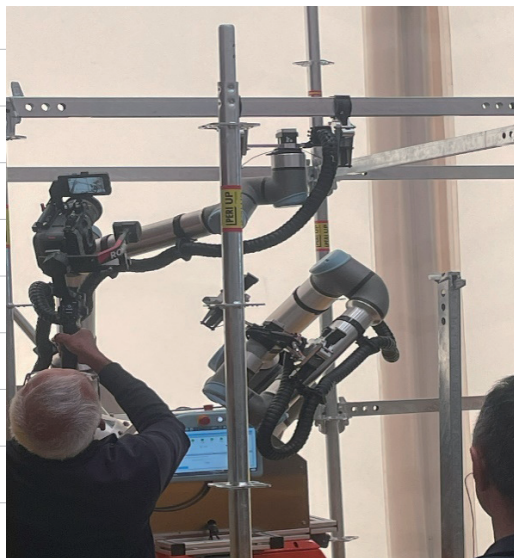


写真5 コボット（コラボレーションロボット）

PERI GmbH 見学終了後は自由見学となり、他社の仮設機材の展示ブースを見学した。

PERI GmbHと同じく野外に展示ブースを構えていたDoka GmbH（写真6）では、型枠に作業床が取り付けられたものの組み立て実演が行われていた（写真7）。



写真6 Doka GmbH展示ブース



写真7 作業員1人での組み立て実演風景

屋内の展示ブースでは様々なくさび緊結式足場（写真8、9）の展示が行われており、1層高2.0mのものが多く展示されていたが、一般的な日本の体格では組立・解体作業が大変そうであった。

また、日本の先行手すりの形状をしたものはなく、同じ先行手すりではあるが斜材や手すり等を下の層から取り付けられるタイプのものであった。



写真8 くさび緊結式足場



写真9 くさび緊結式足場

視察終了後、会場入口に全員集合して記念撮影（写真10）を行い、専用バスでホテルへ出発した。



写真10 bauma2025会場前集合写真



欧州仮設機材事情視察

2025年
vol.2

(3) 4月9日（水）>>>

午前8時頃にロビーに集合してミュンヘンから次の目的地であるオーストリアのウィーンに向けて専用バスで移動を開始した。

3時間ほど乗車した後、途中でザルツブルクに立ち寄り市内視察を行った。

ザルツブルクは川を境に新市街地と旧市街地に分かれており、主に旧市街地（写真11）の方を視察した。旧市街地は迷路のように入り組んだ地形となっていた。

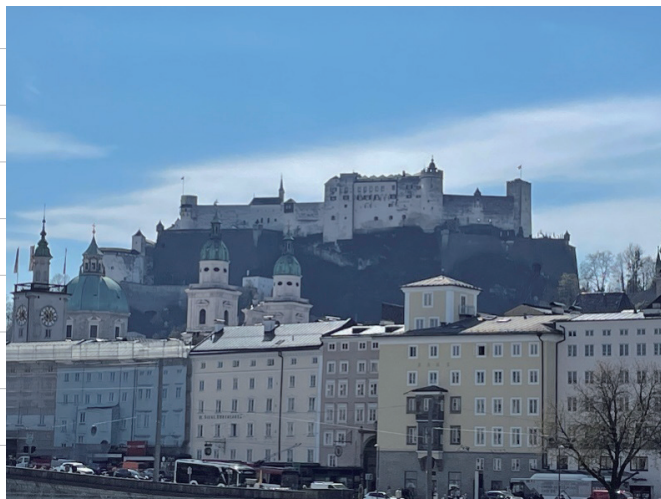


写真11 ザルツブルグ旧市街地

ザルツブルクで昼食をとった後、再び専用バスに乗り、さらに3時間程度かけてウィーンのホテル（Rainers Hotel、写真12）に移動した。



写真12 ホテル（Rainers Hotel）

(4) 4月10日（木）>>>

午前8時15分頃にロビーに集合して専用バスに乗車し、C.A.R. Gerüst GmbHが施工したウィーン市内の工事現場に向かった。

現場到着後、副社長であるマリック氏に説明をしていただきながらホテルやアパート等に設置された足場（写真13～15）を視察した。

足場には緊結金具で固定した単管の先端に取り付けられたピンをアイボルトに通して壁つなぎが取り付けられていた。

また、足場の真下を通行するような歩道が多く見られた。落下物防止について国は安全指導を行っているが、歩道に落下物が落ちる隙間が無ければ良いとのことであり、視察した現場では足場板や床付き布わく等を敷き詰めることで防護構台のような対策としていた。



写真13 ホテル修繕工事現場



写真14 壁つなぎ



写真15 歩道直上の足場

別の工事現場（写真16）では2年前にホテルの外装工事が終わり、現在は内装工事を行っているとのことであった。作業員がホテルの中に入ることなく外から建物内に入ることができるように足場と昇降機を設置したとのことだった。

また、C.A.R. Gerüst GmbHでの墜落事故の発生状況について質問したところ、過去に3名の墜落事故が発生しているが、現在は業務復帰しているとのことだった。

なお、オーストリアではフルハーネス等の墜落制止用器具の着用義務は無く、個人の判断で着用しているとのことであった。



写真16 昇降機

現場視察終了後はウィーン市内中心部の視察を行った。

建物はどれも外観が美しくデザインされており、中でもシュテファン大聖堂（写真17）の外観は精巧に作られた彫刻のようであり、その迫力に圧倒された。

古い建造物が多いためか各地で修繕作業（写真18）が行われているが、外装が複雑であるため作業を行うのはかなり大変であると感じた。



写真17 シュテファン大聖堂



写真18 大聖堂の工事現場

市内中心部の視察終了後は、専用バスで、マリー・アントワネットが幼少期に家族と過ごしたシェーンブルン宮殿（写真19）の視察を行った。今回は時間が無かったため、建物の内部に入ることができなかったが、敷地内の建物と庭園の壮大さに驚かされた。



写真19 シェーンブルン宮殿

視察終了後、ウィーン市内のレストランに移動して山崎技術部長兼東京試験所所長より参加者各位へのお礼の挨拶（写真20）を行った後、参加者全員で集まる最後の夕食をとった。



写真20 レストランでの挨拶

(5) 4月11日（金）>>>

午前10時頃に専用バスで空港へ向かった。空港到着後、出国の手続きを行い、午後11時30分に約12時間かけて帰国の途についた。

(6) 4月12日（土）>>>

午前8時50分頃に欧州仮設機材事情視察団38名は無事に成田国際空港に到着し、参加者はそれぞれ挨拶を交わし解散した。

3 まとめ

今回の視察では参加者38名が、無事に全日程を終えることができた。

bauma2025では欧州の仮設機材を見学するだけでなく、未来に向けて開発しているマシン等も見学することができて大変貴重な体験となった。

オーストリアでの工事現場視察では作業者や通行人に対する安全の考え方について、日本との違いを確認することができて大変参考になった。

仮設機材の視察以外でも、ドイツ・オーストリアの歴史や文化に触れることができ、参加者同士の懇親を深める機会も多くあり、大変有意義な視察であった。

最後に、今回の視察に参加された皆様、添乗員の松岡様、視察旅行を企画して頂いたベストワールド(株)の関係者の方々に心より感謝申し上げます。